

# ヘーゲルの絵画体験資料源泉ノート

——ヘーゲルの所蔵本から——\*

神山伸弘

## 1. はじめに

ヘーゲルは、「美学」講義を1818年夏学期<sup>(1)</sup>にハイデルベルク大学で、「美学すなわち芸術の哲学」講義を、1820/21年冬学期<sup>(2)</sup>と1823年夏学期<sup>(3)</sup>、1826年夏学期<sup>(4)</sup>、1828/29年冬学期<sup>(5)</sup>にベルリン大学で行っている。このうち、講義録ノートが翻刻・公刊されているのは、1820/21年冬学期のもの<sup>(6)</sup>、1823年夏学期のもの<sup>(7)</sup>、1826年夏学期のもの<sup>(8)</sup>である。

ヘーゲルの「絵画 Malerei」論は、伝えられた講義録によるかぎり、1820/21年冬学期講義と1823年夏学期講義の場合、「特殊部門」の「第1部」<sup>(9)</sup>「像をなす芸術 Die bildenden Künste」のうち、「A) 建築」、「B) 彫刻」、「C) 絵画 Die Malerei」<sup>(10)</sup>の並びで位置づけられる。1826年夏学期講義の場合、「第2の特殊部門」のうち、「建築」、「彫刻」、「絵画」、「音楽」、「詩文芸」の並び<sup>(11)</sup>で位置づけられる。

各講義の「絵画」論で言及される具体的な作品ないし画派に対しヘーゲルがいかに接したのかを確認することは、ヘーゲルの講義内容を理解するうえで決定的であることはいうまでもない。このさい、言及された作品と画家が明白であれば、講義にあるテキストだけでそれなりに議論することも可能であろう。しかし、それらに言及がない場合、なんらかの固有名ないし個性的言及を手掛かりにある程度の範囲を想定する必要に迫られるだろう。

写真による画集が流布する今日にあっても、絵画を芸術として享受するには、その現物を感性的に鑑賞することが本質的に重要である。ましてや、そうした技術のない当時にあっては、模写複製や版画によってなんらかの概略を知りえたとしても、それは芸術の享受としてはまったく意味をなさないのだから、絵画を論ずるためには、そもそも現物に接するよりほかにはないはずである。

この点、「像をなす芸術」は、「音をなす芸術である音楽 Die tönende Kunst oder die Musik」(1823年夏学期講義「特殊部門」「第2部」)<sup>(12)</sup>、「朗読する芸術である詩文芸 Die redende Kunst oder die Poesie」(同「第3部」)とは、まったく性格を異にするというべきであろう。というのも、「音」をメディアとする芸術は、その再現の場の個性が決定的な意味をもつとしても——そして芸術としてはその個性にこそ意味があるとしても——、その内容は、楽譜や文字として印刷技術により広く知れ渡ることができる——したがって個性の異なるかもしれない再現を別の場

で繰り返す必要がある——のに対し、「像」をメディアとする芸術は、その現物が存在する場でなければ決して享受しえないからである<sup>(13)</sup>。

したがって、ヘーゲルは、みずからの「芸術の哲学」で「絵画」論をなすうするためには、その現物の作品に触れている必要があった。また、このことが、ヘーゲルの「絵画」論を理解し評価するための根柢になければならないはずである。つまり、ヘーゲルが「観る」ことができたかぎりでの「絵画」作品に照らしてヘーゲルの議論を吟味する態度である。そして、これを核心とすることによってこそ、ヘーゲルの「絵画」論がそうした経験的基盤のあるしっかりした議論なのか、あるいは具体的な作品鑑賞に基盤のない——あたかも「観てきたような嘘をつく」——空論にすぎないのか、の判別をすることができるというものだろう。

さて、そうしたとき、ヘーゲルの絵画体験をどう整理すべきか、という方法論が必要になってくる。現物の「絵画」が存在する場所に居合わせなければならないのだから、まず必要な条件として、そこに居住したか訪問したかしなければならないだろう。そして、その「絵画」の表象は、時間とともに再現性が低下するであろうから、講義に近接した時点の場がまずは参照されるべきものだろう。すると、ヘーゲルが「美学」ないし「芸術の哲学」を講義したハイデルベルクとベルリンにおける絵画展示のありよう、また、そのときに行った「芸術旅行」の行先での絵画展示のありようを検討する必要がある。

その絵画展示のありようは、当時における現物の「絵画」の所在を確認するところから明らかになるはずで、この点でヘーゲルが行った実際の鑑賞とは独立しているものである。ただ、ヘーゲル自身が実際に鑑賞しないことにはヘーゲルの「絵画」論も成り立たないのだから、このかぎりでは、その鑑賞の蓋然性を高める必要がある。この意味では、ヘーゲルが所持した「絵画」関係の資料をまずは点検するのが捷徑である。この研究ノートでは、このことをねらいとしている。

## 2. ヘーゲルの芸術旅行

ヘーゲルは、ハイデルベルク大学やベルリン大学で「美学」ないし「芸術の哲学」を講義するさい、こと「絵画」に関して、その前提として現物の（「現実」の）鑑賞を行っている事実がある。こうした実際の鑑賞をヘーゲル自身がどのように位置づけたかは、「芸術の哲学」の理論と実証の問題としてきわめて重要であるが、現時点ではこの点に立ち入ることができない。それはさておき、当然ながら、ハイデルベルクおよびベルリンにおける展示の鑑賞は日常的に行えるものであろうが<sup>(14)</sup>、特別のプロジェクトとして挙行された「芸術旅行」は<sup>(15)</sup>、各年の講義を理解するさいに踏まえておかなければならない。

ハイデルベルク大学における1818年夏学期の前提となるのは、ミュンヘン旅行である<sup>(16)</sup>。したがって、この講義では、ハイデルベルクにおけるボアスレのコレクションと、ミュンヘンで観たものが資料源泉として注目すべきものとなる。た

だ、いかんせん、これらの講義は、今日に伝えられているものがないので、現状では、資料源泉の背景までしか論じえない。

ベルリン大学における各学期の前提は、イェシュケの整理が役立つ<sup>(17)</sup>。

1820/21年冬学期の前提となるのは、1820年8月から9月にかけてのドレスデン旅行である。

1823年夏学期の前提となるのは、1821年のドレスデン旅行と、1822年9月から10月にかけてのネーデルラント旅行である。後者のネーデルラント旅行は、ケルンを経て、ネーデルラントに赴くものだったが、そこでは、アーヘン、ルーフェン、ブリュッセル、ロッテルダム、ヘント、アントウェルペン、ブレダ、デン・ハーグ、アムステルダムを順に訪れている。しかも、このうち、ブリュッセル滞在時にフランスへ、ロッテルダム滞在時にイギリスへ足を延ばしている。

1826年夏学期の前提となるのは、1824年9月から10月にかけてのウィーン旅行である。この旅行では、ドレスデンとプラハを経由している。

1828/29年冬学期の前提となるのは、1827年8月から10月にかけてのフランスおよびネーデルラント旅行である。すなわち、カッセル、コブレンツ、トリエーア、ルクセンブルク、メス、最初の革命戦争の地やカタラウヌムの野、パリ、ブリュッセル、ヘント、ブリュッヘ、ルーフェン、リエージュ、アーヘン、ケルン、ボン、ヴァイマルの順に旅行している。

### 3. ヘーゲルの絵画関係所蔵本とベルリン大学「芸術の哲学」講義

ヘーゲルの所蔵本<sup>(18)</sup>のうち美学関係のものを刊行年にしたがって整理すると、1818年のハイデルベルク大学講義以前の「ナポレオン美術館」のカタログ（品番1595、1811年パリ刊）があるが、その当時ヘーゲルがパリ旅行を行った事実はないから、これが同講義に関連するとはみられない。管見では、これ以外にヘーゲルが所蔵する1817年以前の絵画関係本は見出せないので、ハイデルベルク大学講義に関連するものから出発することができない。一般に、書籍の刊行年と講義との時間的關係では、当然ながら、刊行としては前者が先行すると考えるべきであるが、前者が先行するからといってそれが当該講義に利用されたと断ずることはできない。刊行時に書籍を入手するとは限らないからである。こうした時間的關係は、あくまで必要条件でしかない。参照しうる事実の重みによって条件の十分性を吟味する必要がある。

以下、ベルリン大学講義でヘーゲルが手元に置いて参照した可能性のあるヘーゲルの所蔵本を整理してみる。なお、太字体で所蔵本のレコードを掲げる。その冒頭の数字は品番、刊行年は下3桁、brは「仮綴じ（紙表紙）本（Broschur）」、Ppbは「厚紙（板紙）装丁本（Pappband）」、hFrzbは「子牛背革装本（Halbfranzband）」である。このレコードの書誌には不完全なところ、不明なところもあるので、それを伝えられた写真版（「Googleブックス」などを利用。2015/3/8アクセス現在）で

確かめうるものは、それによって【詳細】書誌を掲げる。また、必要に応じて、【補足説明】【概要】を記しておく。

(1) 1820/21年冬学期

該当なし。ただし、実物を見ないまま次項のいくつかを参照することは可能。

(2) 1823年夏学期

① 1597. *Notice des tableaux du musée d'Envers*. 820. br.

【詳細】 *Notice des tableaux dont se compose le Musée d'Anvers*, 1820. De l'Imprimerie de H. P. Vander Hey<sup>(19)</sup>.

【補足説明】 1820年刊行であるが、Anvers（アントウェルペン）への訪問が1822年であることから、絵画実物との対照では、この講義以降の利用とみなすことができる。

【概要】 1810年創立の現アントウェルペン王立美術館（Koninklijk Museum voor Schone Kunsten Antwerpen）<sup>(20)</sup> のカタログ。基本的に画家別に整理された226作品を示す。全54頁。フランス語。

② 1598. *Notitie der Schilderyen van het kon. kabinet te's Gravenhage* 822. br.

【詳細】 *Notitie der Schilderijen van het Koninklijk Kabinet te 'sGravenhage*. 1822. 'sGravenhage, Bij A. H. Bakhuyzen, Boekverkooper van Z. M.<sup>(21)</sup>.

【概要】 王立美術館として1822年に開館した現マウリッツハイス美術館（Het Mauritshuis）<sup>(22)</sup> のカタログ。「国王陛下（Z. M. = Zijne Majesteit）御用達書籍商Bakhuyzen刊行。そのほとんどがオランダ総督ウィレム5世収集。一部初代国王ウィレム1世収集のものがある。おもにネーデルラント画派（Nederlandsche Scholen）とイタリア画派（Italiaansche Scholen）それぞれの画家名アルファベット順に整理された305作品。全39頁。オランダ語。フランス画派とドイツ画派は、別カタログになる。

③ 1591. *Catalogus der Schilderyen op 4s rijks Museum te Amsterdam*. Amst. Ppb.

【詳細】 *Catalogus der schilderijen, oudheden, enz. op 's Rijks Museum te Amsterdam berustende*. [21816]<sup>(23)</sup>

【補足説明】 初版は1810年。Catalogus der Schilderijen, teekeningen, oudheden en Rariteiten, op het Museum te Amsterdam. [1810]<sup>(24)</sup> 第5版が1825年。Catalogus der schilderijen, oudheden, enz. op 's Rijks Museum te Amsterdam berustende. [51825]<sup>(25)</sup> ヘーゲルが実際に参照したものは、第4版以前の蓋然性が高いが、第2版～第3版が目下参照不能のため、断定的なことが言えない。

【概要】 Cornelis Apostoolが編集<sup>(26)</sup>。1808年開館の現アムステルダム国立美術館（Rijksmuseum）<sup>(27)</sup> のカタログ。1810年の初版は、画家名アルファベット順に整理された583作品。全108頁。オランダ語。うち、96頁460番からは骨董品（oudheden en rariteiten）、101頁503番からはドレンテ州発見の骨董品、

105頁533番からはスケッチ (teekeningen)。なお、1816年の第2版は未見。

④ 1593. Musée Napoléon. Notice des tableaux. br.

⑤ 1595. Notice des tableaux et bas reliefs du Musée Napoléon. Paris 811. br.

【詳細】④⑤は、書誌が不完全であるため、実物を確定することが難しい。次の3点の可能性がある。(下線は注目点。)

1° Notice des tableaux exposés dans la Galerie Napoléon. Paris, L. -P. Dubray, Imprimeur du Musée Napoléon, 1811<sup>(28)</sup>.

2° Notice des dessins, des peintures, des bas-reliefs et des bronzes, exposés au Musée Napoléon, dans la Galerie d'Apollon: [suivi de] Notice des tableaux anciens, des trois écoles, mis dans le Salon d'Exposition de Peinture moderne, en juin de l'an 1811. Paris, L. P. Dubray, Imprimeur, 1811<sup>(29)</sup>.

3° Notice des statues, bustes et bas-reliefs, de la Galerie des antiques du Musée Napoléon, ouverte pour la première fois le 18 Brumaire an 9. A Paris, De l'Imprimerie de L.-P. Dubray, Imprimeur du Musée Napoléon. 1811<sup>(30)</sup>.

【補足説明】④については、刊行年が不明のため、あくまでも推測にとどまらざるをえない。⑤と同様に1811年のものを考えたとき、冒頭に“tableaux”が来るのは1°である。

⑤については、“tableaux”と“bas reliefs”の組み合わせがあるものの、この順序のものが見つからない。

ただ、2°は、逆順で登場する。2°は3頁から始まる“Notice des dessins ...”に続き“Notice des tableaux ...”が133頁から始まる。ページ付けが明確なので、逆順での製本のものはいないだろう。可能性として、長い書誌を簡略化しようとして、“dessins des peintures”を“tableaux”に置き換えたのかもしれない。いずれにせよ、現時点の調査では2°が有力である。

【概要】1°は、L. P. Dubray 編集。1793年開設の現ルーヴル美術館のカタログ。「ナポレオン美術館」名称当時のもの。フランス画派、ドイツ・フランドル・オランダ画派、イタリア画派に区分し、画家名アルファベット順に整理された1233作品。全152頁。フランス語。

2°は、オリジナルのデッサンをイタリア画派、ドイツ・フランドル・オランダ画派、フランス画派に分け、画家のアルファベット順に645作品。ほかに彫像とブロンズ像などを収録。全681作品。全140頁。

3°は、展示室ごとに作品名(対象名)を挙げ、全254作品。全184頁。

(3) 1826年夏学期

① 1604. J. Pezzl's neueste Beschreibung von Wien 6te Ausg. Wien. Ppb.

【詳細】Johann Pezzl's *Neueste Beschreibung von Wien*. Sechste, verbesserte und vermehrte Ausgabe. Wien: in Carl Armbruster's Verlage, Gedruckt bey Anton Strauß<sup>(31)</sup>.

【補足説明】1822年刊行であるが、ウィーンへの訪問が1824年であることから、

この講義以降の利用とみなすことができる。

【概要】 ウィーンの都市案内。全452頁。第18章が „Die k. k. Akademie der vereinigten bildenden Künste,“ (S. 288 ff.), „Bildende Künstler“ (S. 291 f.), 第19章が „Kunstsammlungen. Kunsthandlungen. Die Gesellschaft der Musikfreunde. Vaterländisches Conservatorium. Tonkünstler“ (S. 293-319) となっている。

② 699-703. H. Meyer, *Gesch. d. bildenden Künste bei den Griechen*. 2 Thle. Dresden 824. Ppb u. Abbild. dazu in 3 Heften in Fol. br.

【詳細】 Heinrich Meyer's *Geschichte der bildenden Künste bei den Griechen, von ihrem Ursprunge bis zum höchsten Flor*. Erste Abtheilung, den Text enthaltend. Dresden in der Waltherschen Hofbuchhandlung, 1824<sup>(32)</sup>.

—, Zweyte Abtheilung, die Anmerkungen enthaltend. Dresden in der Waltherschen Hofbuchhandlung, 1824<sup>(33)</sup>.

—, Dritte Abtheilung, enthaltend: I. Sache- und Ort-Register. II. Verzeichniß der angeführten alten Künstler. Dresden in der Waltherschen Hofbuchhandlung, 1824<sup>(34)</sup>.

Abbildungen zu Heinrich Meyers *Geschichte der bildenden Künste bei den Griechen : von ihrem Ursprunge bis zum höchsten Flor*, Dresden in der Waltherschen Buchhandlung, 1825. [1] Bl., 8 S., 31 Bl. : überw. Ill. (Kupferst.). ; quer4° Sekundärausg.

【補足説明】 品番が699から703であることから、全体で5冊本であることがわかる。„Abbildungen“ は、ベルリン国立図書館の書誌データ。これはインターネットで公開されていないので、所蔵館で参看する必要がある。5冊のうち、第3部以降が3分冊になっていると理解すべきか。

③ 749. C. Seidel, *Charinomos, Beitr. z. Theorie u. Gesch. der schönen Künste*. 2 Bde. Magdeb. 825. 28. hFrzb.

【詳細】 Carl Seidel, *Charinomos. Beiträge zur allgemeinen Theorie und Geschichte der schönen Künste*. [Erster Band]. Magdeburg 1825. bei Ferdinand Rubach<sup>(35)</sup>.

—, Zweiter Band. Magdeburg 1828. bei Ferdinand Rubach<sup>(36)</sup>.

【補足説明】 第2巻は1828年刊行であるから、この講義では用いることができない。

(4) 1828/29年冬学期

① 1603. *Notice des tableaux dans la galerie du musée royal*. Paris 827. br.

【詳細】 *Notice des tableaux exposés dans la galerie du Musée Royal*. Paris, Ve. Ballard, Imprimeur du Roi, 1826<sup>(37)</sup>.

【補足説明】 1827年版は検索できない。註で示したサイトで、1826年版の次の所蔵は1830年版。

【概要】 Ve Ballard 編集。現ルーヴル美術館のカタログ。フランス画派、フラ

ンドル・ドイツ・オランダ画派、イタリア画派に分ける。全1249作品。全220頁。

② 1592. *Catal. d'une riche collection de tableaux recueillis par Danoot. Brux. 828.*

【詳細】 *Catalogue d'une riche collection de tableaux, des écoles flamande, hollandaise, italienne et française, recueillis par M. Danoot, en son vivant banquier a bruxelles. Les tableaux seront a voir le vendredi, samedi et dimanche, qui précéderont la vente, de 10 a 3 heures. Bruxelles, de l'imprimerie de V<sup>e</sup>P. J. De Mat, Grande Place. 1828* <sup>(38)</sup>.

【概要】 Danootコレクションのオークション・カタログ。画家名のアルファベット順に整理。全39頁。

【参考】

① 765. *Die geschnittenen Steine im königl. Museum zu Berlin. Berl. 827. Ppb. 1560. Die geschnittenen Steine im Königl. Museum zu Berlin. Berlin 827. Ppb.*

【詳細】 *Verzeichniss der geschnittenen Steine in dem Königlichen Museum der Alterthümer zu Berlin. Berlin, Bei C. G. Lüderitz. Gedruckt in der Druckerei der Königl. Akademie der Wissenschaften. 1827* <sup>(39)</sup>.

【補足説明】 765 と 1560 は同一書籍（あるいはその副本）であろう。

【概要】 遺跡断片のカタログ。

② 1594. *Il Museo Bartoldiono descr. dal T. Panofka. Berol. 827. br.*

【詳細】 *Il Museo Bartoldiano, Descritto dal dottore Teodoro Panofka, Socio della r. Accademia Ercolanese. Berlino, dalla Stamperia accademica. 1827* <sup>(40)</sup>.

【概要】 プロイセンのイタリア総領事だったバルトルディ（1779-1825）が残したエジプトやエトルリア、ギリシア、ローマの骨董品・工芸品のオークション・カタログ <sup>(41)</sup>。ベルリン王立博物館が購入した。Bronzi, Vasi Dipiniti, Terre Cotte, Vetri e Paste に分ける。全180頁。イタリア語。

#### 4. 課題

これらの諸本で取り上げられる絵画の実際を確定し、所蔵を明確にする必要があるが、いずれも膨大な作業となる。したがって、絞り込みが必要で、このためには、ヘーゲルが講義において言及するあり方から迫る必要があるであろう。

#### 註

\*このノートは、科学研究費補助金基盤研究（B）一般「ヘーゲル美学講義に結実した芸術体験の実証的研究」（研究代表者：石川伊織、課題番号：26284020）による共同研究の成果の一部である。本稿をなすにあたり、とくに、小島優子氏（高知大学）、柴田隆行氏（東洋大学）、村田宏氏（跡見学園女子大学）からご教示をえた。この場を借りて感謝の意を表しておく。

(1) „Sommer-Semester 1818“, „Ästhetik: Prof. Hegel, nach Diktaten, 5mal wöchentlich v. 5-6 Uhr.“ Vgl. *Brief von und an Hegel*, Bd. IV, T. 1, Dokumente und Materialien zur Biographie,

- Hrsg. v. F. Nicolin, (*Philosophische Bibliothek*, Bd. 238a), Hamburg 1977, S. 111. なお、先立つ1817年夏学期に「美学」講義の予告が出されたが、時間と健康上の問題で中止になった。„*Winter-Semester 1817*“, „*Ästhetik*: Prof. Hegel, nach Diktaten, 5 Stunden wöchentlich v. 4–5 Uhr.“ Vgl. a. a. O., S. 111, 328.
- (2) „*Winter-Semester 1820/21*“, „*Aestheticen* s. philosophiam artis tradet quinquies p. hebdom. hor. V–VI.“, „*Ästhetik, als Philosophie der Kunst*, liest Hr. Prof. Hegel fünfmal wöchentlich von 5–6 Uhr.“ Vgl. a. a. O., S. 114 f., 120.
- (3) „*Sommer-Semester 1823*“, „*Aestheticam* sive philosophiam artis quater per hebdom. hor. IV–V.“, „*Ästhetik oder Philosophie der Kunst, Ders.* [=Hr. Prof. Hegel] viermal wöchentlich von 4–5 Uhr.“ Vgl. a. a. O., S. 116, 121.
- (4) „*Sommer-Semester 1826*“, „*Aestheticen* sive philosophiam artis quater p. hebdom. dieb. Lun. Mart. Iov. Ven. h. V–VI. docebit.“, „*Ästhetik oder Philosophie der Kunst* lehrt Hr. Prof. Hegel viermal wöchentl. v. 5–6 Uhr.“ Vgl. a. a. O., S. 117, 123.
- (5) „*Winter-Semester 1828/29*“, „*Aestheticen*, seu philosophiam artis quinquies p. hebdom. h. XII–I. docebit.“, „*Ästhetik oder Philosophie der Kunst* wird Hr. Prof. Hegel fünfmal wöchentl. v. 12–1 Uhr vortragen.“ Vgl. a. a. O., S. 118, 124.
- (6) G. W. F. Hegel, *Vorlesung über Ästhetik. Berlin 1820/21. Eine Nachschrift, I. Textband*, Hrsg. von H. Schneider, (*Hegeliana*, Bd. 3), Frankfurt am Main 1995.
- (7) Georg Wilhelm Friedrich Hegel, *Vorlesungen über die Philosophie der Kunst*, (Nachschrift von H. Hotho, 1823), Hrsg. von A. Gethmann-Siefert, (G. W. F. Hegel, *Vorlesungen, Ausgewählte Nachschriften und Manuskripte*, Bd. 2), Hamburg 1998; *Philosophische Bibliothek*, Bd. 550, Hamburg 2003.
- (8) Georg Wilhelm Friedrich Hegel, *Philosophie der Kunst, Vorlesung von 1826*, [P. von der Pfordtens Mitschrift] Hrsg. von A. Gethmann-Siefert, et al., (StW1722), Frankfurt am Main 2004. Georg Wilhelm Friedrich Hegel, *Philosophie der Kunst oder Ästhetik, Nach Hegel. Im Sommer 1826*, Mitschrift Friedrich Carl Hermann Victor von Kehler, Hrsg. von A. Gethmann-Siefert et al., München 2004.
- (9) 既刊の1823年夏学期講義録の場合に明示的。
- (10) 既刊の1823年夏学期講義の場合。既刊の1820/21年冬学期講義では「I」「II」「III」の序数。
- (11) このように並列するのは、ヘーゲルの区分ではなく、講義筆記録の個性による可能性が高い。
- (12) 既刊の1820/21年冬学期講義でも同様。
- (13) 鋳物や版画など、そもそも複製を目的とするものの流通性は、ここでは想定しない。
- (14) Vgl. „Galerien und Ausstellungen: Von Boisserée zur Düsseldorfer Schule“, in: *Hegel in Berlin: Preußische Kulturpolitik und idealistische Ästhetik, Zum 150. Todestag des Philosophen*, (Staatsbibliothek Preußischer Kulturbesitz, Ausstellungskataloge 16), Hrsg. d. Katalogs: Otto Pöggeler, Berlin 1981, S. 95–103.
- (15) Vgl. „B. Kunst- und Bildungsreisen“, in: a. a. O., S. 131–180.
- (16) Vgl. „B. Kunst- und Bildungsreisen“, in: a. a. O., S. 133.
- (17) Vgl. Walter Jaeschke, *Hegel-Handbuch, Leben–Werke–Schule*, Stuttgart / Weimar 2003, S. 51–54. 以下、この箇所を拠る。
- (18) Vgl. *Verzeichniß der von dem Professor Herrn Dr. Hegel und dem Dr. Herrn Seebeck, hinterlassenen Bücher-Sammlungen*; ..., Berlin 1832. 今日では、次のサイトで参看できる。http://picus.sns.it/index.php?page=TOC&id=38&lang=it (2015/3/8アクセス現在)
- (19) URL ☞ [http://books.google.co.jp/books?id=5q1bAAAAQAAJ&dq=intitle%3ANotice%](http://books.google.co.jp/books?id=5q1bAAAAQAAJ&dq=intitle%3ANotice%3A)



20intitle%3AAanvers&hl=ja&pg=PA3#v=onepage&q&f=false

- (20) 公式サイト URL ☞ <http://www.kmska.be/nl/>
- (21) URL ☞ [https://books.google.co.jp/books?id=yOJQAAAACAAJ&printsec=frontcover&dq=intitle:Notitie + intitle:der + intitle:schilderijen&hl=ja&sa=X&ei=Cu6nVP2WN4TXmgXL5YH4CQ&ved=0CCYQ6AEwAQ#v=onepage&q&f=false](https://books.google.co.jp/books?id=yOJQAAAACAAJ&printsec=frontcover&dq=intitle:Notitie+intitle:der+intitle:schilderijen&hl=ja&sa=X&ei=Cu6nVP2WN4TXmgXL5YH4CQ&ved=0CCYQ6AEwAQ#v=onepage&q&f=false)
- (22) 公式サイト URL ☞ <http://www.mauritshuis.nl/> なお、<http://mauritshuis.nl/nl-nl/pers/persarchief/2014/feestelijk-welkom-meisje-met-de-parel/> 参照。
- (23) URL ☞ <https://books.google.co.jp/books?id=9aV2mgEACAAJ&dq=editions:D9qU0TQYm84C&hl=ja&sa=X&ei=kfKoVObWfOLr8gWYsYGwBQ&ved=0CBwQ6AEwAA> 【テキストは見られない。】
- (24) URL ☞ [https://books.google.co.jp/books?id=kt09AAAAACAAJ&printsec=frontcover&dq=intitle:catalogus + intitle:oudheden + intitle:amsterdam&hl=ja&sa=X&ei=t-uoVOLTEsL8gXe5oDQBg&ved=0CDEQ6AEwAA#v=onepage&q&f=false](https://books.google.co.jp/books?id=kt09AAAAACAAJ&printsec=frontcover&dq=intitle:catalogus+intitle:oudheden+intitle:amsterdam&hl=ja&sa=X&ei=t-uoVOLTEsL8gXe5oDQBg&ved=0CDEQ6AEwAA#v=onepage&q&f=false)
- (25) URL ☞ <https://books.google.co.jp/books?id=ZHO7PAAACAAJ&dq=editions:D9qU0TQYm84C&hl=ja&sa=X&ei=kfKoVObWfOLr8gWYsYGwBQ&ved=0CCMQ6AEwAQ> 【テキストは見られない。】
- (26) 次のサイトを参照。URL ☞ <http://resources.huylgens.knaw.nl/bwn1780-1830/lemmata/data/Apostool>
- (27) 公式サイト URL ☞ <https://www.rijksmuseum.nl/>
- (28) URL ☞ <http://bibliotheque-numerique.inha.fr/collection/7882-notice-des-tableaux-exposes-dans-la-gal/?lang=fr>
- (29) URL ☞ <http://bibliotheque-numerique.inha.fr/collection/7777-notice-des-dessins-des-peintures/>
- (30) URL ☞ <http://babel.hathitrust.org/cgi/pt?id=umn.31951002007940e;view=2up;seq=6>
- (31) URL ☞ <http://books.google.co.jp/books?id=YQVYAAAACAAJ&dq=intitle%3Aneueste%20intitle%3ABeschreibung%20intitle%3AWien%20inauthor%3APezzl&hl=ja&pg=PA150#v=onepage&q&f=false>
- (32) URL ☞ <http://books.google.co.jp/books?id=5H1mAAAAAMAAJ&dq=intitle%3AGeschichte%20intitle%3Abildenden%20intitle%3AGriechen%20inauthor%3AMeyer&hl=ja&pg=PA2#v=onepage&q&f=false>
- (33) URL ☞ <http://books.google.co.jp/books?id=qHtmAAAAAMAAJ&dq=editions%3ABpXKAiiNr8C&hl=ja&pg=PA1#v=onepage&q&f=false> 【これは、次の第3部も含む。】
- (34) URL ☞ <http://books.google.co.jp/books?id=qHtmAAAAAMAAJ&dq=editions%3ABpXKAiiNr8C&hl=ja&pg=PA261#v=onepage&q&f=false> 【これは、前と同一のもの。】
- (35) URL ☞ <https://books.google.co.jp/books?id=dZ9KAAAACAAJ&printsec=frontcover&dq=editions:UuuZl30AKDYC&hl=ja&sa=X&ei=3AWoVPeQD4WG8QW5sYIGBg&ved=0CDoQ6AEwBA#v=onepage&q&f=false>
- (36) URL ☞ <https://books.google.co.jp/books?id=3H5KAAAACAAJ&printsec=frontcover&dq=editions:UuuZl30AKDYC&hl=ja&sa=X&ei=3AWoVPeQD4WG8QW5sYIGBg&ved=0CCoQ6AEwAg#v=onepage&q&f=false>
- (37) URL ☞ <http://bibliotheque-numerique.inha.fr/collection/7869-notice-des-tableaux-exposes-dans-la-gal/?n=1>
- (38) URL ☞ <http://books.google.co.jp/books?id=tp1MAAAAACAAJ&dq=intitle%3ADanoot&hl=ja&pg=PA31#v=onepage&q&f=false>

- (39) URL ☞ <http://books.google.co.jp/books?id=dA0ikAhQqPEC&dq=intitle%3Ageschnittenen%20intitle%3ASteine%20intitle%3AMuseum%20intitle%3ABerlin&hl=ja&pg=PA283#v=onepage&q&f=false> 【ここで取得できるデータは、他の論文も附属しているので、検証が必要である。】
- (40) URL ☞ [https://books.google.co.jp/books?id=dphbAAAAQAAJ&printsec=frontcover&dq=editions:\\_A4R6rp9a2cC&hl=ja&sa=X&ei=mamoVPv1EMjN8gXVvIGgDw&ved=0CCMQ6AEwAQ#v=onepage&q&f=false](https://books.google.co.jp/books?id=dphbAAAAQAAJ&printsec=frontcover&dq=editions:_A4R6rp9a2cC&hl=ja&sa=X&ei=mamoVPv1EMjN8gXVvIGgDw&ved=0CCMQ6AEwAQ#v=onepage&q&f=false)
- (41) Vgl. *Jahrbücher für Philologie und Paedagogik, Eine kritische Zeitschrift in Verbindung mit einem Verein von Gelehrten*, hrsg. v. M. Joh. Christ. Jahn, Dritter Jahrgang, Erster Band, Erstes Heft, Leipzig, Druch und Verlag von B. G. Teubner, 1828 (Google), S. /34.